

(2) 蘚苔類

(ア) 埼玉県内に生育する蘚苔類の特色

県内には、低地の暖温帯（照葉樹林帯）から高地の亜寒帯（針葉樹林帯）に至るまで様々な森林が発達し、気候や植生が多様である。蘚苔類は各森林帯の分布とともに出現する種類が異なっている。秩父山地の高地には北半球の冷温帯に広く分布する周北要素の種が多く、標高が下がって山地帯になるに従いヒマラヤから中国、台湾などに分布する東アジア要素の種や日本固有種が多く生育する。また、地質的にも多様で岩石の種類が豊富である。蘚苔類の多くは着生基物（土壌・岩石・樹皮）に直接生育するため、それらの酸性度や含有成分などの性質の影響を受けやすい。したがって、石灰岩やチャートをはじめとする様々な岩石が存在する埼玉県は、国内でも多数の蘚苔類を産する数少ない県である。

このようなことから、埼玉県、特に秩父山地はわが国において最も有名な蘚苔類の産地として、古くから詳しく調べられ、生育する種類が最も解明されている都道府県の一つである。これまでにセン類約 530 種、タイ類約 220 種、ツノゴケ類 5 種が報告されている。しかし、低地は都市化が進み、石灰採掘により消滅した石灰岩地域もあり、絶滅の危機に瀕している蘚苔類も多い。

① 暖温帯（照葉樹林）

この森林帯で蘚苔類の種類が多く見られるのは、埼玉県西部の比企丘陵を含む地域である。県内では降雨量が多く、温暖な地域であるため、暖かい地方の蘚苔類が多く見られ、北限となっている種類も多い。空中湿度の高い沢沿いには *Barbella flagellifera*（キヨスミイトゴケ）がスギの木の枝から垂れ下り、*Leptolejeunea elliptica*（カビゴケ）もアオキなどの生葉上に着生する。日当たりの良い沢沿いの木の幹や露出した根に生育する *Cyathophorum hookerianum*（コキジノオゴケ）、日陰の沢沿いのチャート上に見られる *Distichopyllum maibarae*（ツガゴケ）もこの地域に見られる。北限の蘚類では石灰岩上に生育する *Pinnatella makinoui*（キブリハネゴケ）、苔類には *Plagiochila fruticosa*（トサハネゴケ）や *Frullania sackawana*（サカワヤスデゴケ）などが知られている。しかし、森林の伐採や道路の整備、宅地開発、交通量の増加等で徐々に乾燥化が進み、懸垂性の蘚類や生葉上の苔類が減少している。また、特異な分布をする蘚苔類も知られている。吉見町の百穴や小川町では標高が低いにもかかわらず、一般的には亜高山帯に見られる *Schistostega pennata*（ヒカリゴケ）が生育している。荒川沿いの人家の庭や路地、畑などの土上には 元来秩父山地に分布している *Mannia fragrans*（ミヤコゼニゴケ）が生育しており、秩父山地の影響が低地にも見られる。

一方、埼玉県東・南・西部地域は稲作地帯が広がり、人為的に管理されていたコナラやクヌギの薪炭林が発達する里山だった。戦後、圃場整備と乾田化が進み、水田とその周辺の蘚苔類は激減したと思われるが、かつての記録が少なく、その変化は不明である。また、薪炭林は放棄され、林床がササで覆われてしまい、蘚苔類はほとんど見られなくなった。近年、都市化が進み、蘚苔類相は益々貧弱になったが、水田やため池、用排水路には稲作のサイクルに適応した蘚苔類の生育が見られる。しかし、近年農薬などの影響で極端に減少している。これらの種には *Ricciocarpos natans*（イチョウウキゴケ）、*Riccia fluitans*（ウキゴケ）などがある。

また、水辺環境の保護が叫ばれているが、県内の湿地には *Calliergonella cuspidata*（ヤリノホゴケ）、*Sasaokaea aomoriensis*（ササオカゴケ）などの生育が確認されている。水辺の環境が激変している近年、蘚苔類相の変化をモニタリングする必要がある。

② 冷温帯（夏緑樹林帯）

県北部の標高約 500m から 1,500m にはブナ・ミズナラの優占する森林が発達する。人為的な影響が少ないこれらの極相林には樹皮に着生する蘚苔類が多く見られる。この夏緑樹林帯には、多くの石灰岩地が位置している。武甲山、中津川出合、大血川西谷、前白岩山、芋ノ木ドツケ、豆焼沢、小鹿野町の二子山などである。石灰岩は塩基性岩であるため、石灰岩地域という特異な地域でしか見られない種類も多い。蘚類では *Desmatodon gemmascens*（ムカゴネジレゴケ）、*Didymodon leskeoides*（イトヒキフタゴゴケ）、*Encalypta streptocarpa*（シナノセンボ

ンゴケ)、*Gollania neckerella* (テリハラッコゴケ)、*G. turgens* (ナガバラッコゴケ)、*Miyabea naganoi* (和名なし)、*Orthothecium intricatum* (コホソバツヤゴケ)、*Orthothecium rufescens* (ホソバツヤゴケ)、*Timmia megapolitana* (ミヤマクサスギゴケ)、*Podperaea krylovii* (ヒメコガネハイゴケ) などがある。苔類では *Leiocolea chichibuensis* (チチブブシュカンゴケ)、*L. igiana* (イギイチョウゴケ) が出現する。石灰岩地域ではないが苔類の *Mannia levigata* (ウルシゼニゴケ)、*Asterella cruciata* (オオサイハイゴケ)、*Athalamia nana* (チチブゼニゴケ)、*Targionia hypophylla* (ハマグリゼニゴケ)、*Scapania cuspiduligera* (ミゾゴケモドキ) がある。これらのように国内では非常に珍しく、生育環境が保護されなければ絶滅してしまう種類が多い。

③ 亜寒帯 (針葉樹林帯)

秩父山地の高地には、シラビソやオオシラビソ、コメツガが優占する極相林の針葉樹林が広がっている。十文字峠から水晶峠にいたる林床は一面が蘚苔類に覆われ、樹幹にも多くの種類が着生しているが、種類は限られている。*Apotreubia nana* (ヒメトロイブゴケ) はこのような蘚苔類の群落に混生する。また、*Calycularia crispula* (ミヤマミズゼニゴケ) や *Neohattoria herzogii* (ハットリヤスデゴケ)、*Acrobolbus ciliatus* (チチブイチョウゴケ) も生育している。

針葉樹林帯の石灰岩地である秩父市の赤沢岳から梓白岩にかけての稜線上には蘚類では、*Bryonorrhisia acutifolia* (トガリバギボウシゴケ)、*Didymodon nigrescens* (カイガネクロゴケ)、*Encalypta vulgaris* (ヘラバミヤマヤリカツギ)、*Hypnum vaucheri* (ハイヒバゴケモドキ)、*Tortula sinensis* (ミヤマコネジレゴケ) が生育している。苔類では *Scapania verrucosa* (イボヒシヤクゴケ)、*Plagiochila gracilis* (ヒゲハネゴケ) が生育している。

(イ) 文献について

紙面の都合上、文献としてはなるべく手に入りやすく、図版のそろっているものを記載した。その他、埼玉県内の蘚苔類の分類と分布については次にあげる文献を参考にさせていただきたい。

- 服部新佐編 (1972), 原色日本蘚苔類図鑑. 405. 保育社. 大阪
 井上浩 (1962), タイ類. 埼玉県植物誌. 239-251. 埼玉県教育委員会
 岩月善之助編 (2001), 日本の野生植物コケ. 平凡社. 355. 東京
 木口博史 (1992), コケ植物目録. 自然誌編調査記録集. 134-141. 埼玉県日高市教育委員会
 木口博史 (2003), 小川町の蘚苔類. 小川町の自然 植物編. 217-225. 小川町
 木口博史・平岡照代 (2008), 越生町蘚苔類目録. 越生町史自然史編. 越生の自然. 547-226. 越生町
 永野巖 (1960), 秩父地方の蘚類 (4) 能林における蛇紋岩着生蘚苔類の群落学的研究. 秩父自然科学博物館研究報告
 永野巖 (1962), 蘚類. 埼玉県植物誌. 211-238. 埼玉県教育委員会
 永野巖 (1964a), 秩父山地における蘚類数種の分布と着生基物について. 秩父市自然科学博物館研究報告. 12:45-51
 永野巖 (1964b), 奥秩父蘚類雑記 (3). 秩父自然科学博物館研究報告. 12:53-56
 永野巖・木口博史 (1995), 玉川村コケ植物目録. 玉川村植物誌. 195-203. 玉川村
 永野巖・木口博史・古木達郎 (1998), 埼玉の蘚苔類. 埼玉県植物誌. 491-526. 埼玉県教育委員会
 Noguchi, A (1985), Illustrated Moss Flora of Japan. 1. 1-242. HBL. Miyazaki
 Noguchi, A (1988), Illustrated Moss Flora of Japan. 2. 243-491. HBL. Miyazaki
 Noguchi, A (1989), Illustrated Moss Flora of Japan. 3. 492-742. HBL. Miyazaki
 Noguchi, A (1991), Illustrated Moss Flora of Japan. 4. 743-1012. HBL. Miyazaki
 Noguchi, A (1994), Illustrated Moss Flora of Japan. 5. 1013-1216. HBL. Miyazaki

2001 (ミズゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ホソベリミスゴケ**〔学名〕 *Sphagnum junghuhnianum* Dozy & Molk. subsp. *pseudomolle* (Warnst.) H.Suzuki

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 情報不足(DD)

【評価所見】 本県では、秩父地域の1か所のみが産地として知られている。個体数は渓谷の開発で減少している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 垂直岩壁

【特記事項】

2002 (キセルゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **カシミールクマノゴケ**〔学名〕 *Diphyscium kashmirensis* (H. Rob.) Magombo

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内では産地が秩父地域、西部に限られており、2件の報告しかない。谷沿いの堆積岩上に生育する。山地で道路拡張等に伴い谷筋を開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域・西部地域の谷沿い

【県内生育状況】 谷筋の水面から少し離れた岩上

【特記事項】 国内での報告も少ない。

2003 (キセルゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **クマノゴケ**〔学名〕 *Diphyscium lorifolium* (Cardot) Magombo

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

【評価所見】 永野(1964)では19地点に渡って記録があるが、現在では県内の産地は秩父地域と西部に限られており、4か所しか確認されていない。谷沿いの堆積岩上に生育する。山地で道路拡張等に伴い谷筋を開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域・西部地域の谷沿い

【県内生育状況】 谷筋の水のかかる岩上

【特記事項】 文献は永野巖(1964)秩父山地における蘚類数種の分布と着生基岩について. 秩父自然科学博物館研究報告.12:45-51.

2004 (ホウオウゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ジョウレンホウオウゴケ**〔学名〕 *Fissidens geppii* M. Fleisch.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内の産地は5か所。渓谷の岩上できれいな流水中に生育する。森林開発や道路拡張により渓谷が荒れると消失する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域の渓谷

【県内生育状況】 水のかかる岩上

【特記事項】

2005 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **トガリバキヌシッポゴケ**〔学名〕 *Seligeria acutifolia* Lindb.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか3地域。国内では埼玉以西の本州と四国から報告がある。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 本種は以前、コキヌシッポゴケ(*Seligeria pusilla*)とされていた種の当て間違い。文献は Suzuki T., Iwatsuki Z.& Kiguchi H. (2006) The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. JHB 100:469-493.

2006 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 ヒメキヌシッポゴケ

〔学名〕 *Seligeria calcarea* (Hedw.) Bruch & Schimp.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 秩父地域亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか3地域。国内では埼玉以西の本州と四国から報告がある。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 文献は Suzuki T., Iwatsuki Z. & Kiguchi H. (2006) The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. JHB 100:469-493.

2007 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 ハナシキヌシッポゴケ

〔学名〕 *Seligeria donniana* (Sm) Müll. Hal.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか3地域。国内では岩手県以西の本州と四国から報告がある。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 文献は Suzuki T., Iwatsuki Z. & Kiguchi H. (2006) The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. JHB 100:469-493.

2008 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 チチブキヌシッポゴケ

〔学名〕 *Seligeria galinae* Mogensen & I. Goldberg

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか3か所。国内でも現在のところ、埼玉県内でしか報告されていない。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 文献は鈴木直・岩月善之助・木口博史(2004) *Seligeria galinae* (チチブキヌシッポゴケ、新称) は日本にも産する。Hikobia 14:181-184.

2009 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 サンカクキヌシッポゴケ

〔学名〕 *Seligeria patula* (Lindb.) Broth. var. *alpestris* (Schauer) Ochyra & L.Gos

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 II 類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 分布は岩手県から九州まで。県内の石灰岩上には比較的普通に見られる。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域、西部地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 本種は *Seligeria austriaca* として記載されていたが、現在では *Seligeria patula* var. *alpestris* となっている。文献は Suzuki T., Iwatsuki Z. & Kiguchi H. (2006) The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. JHB 100:469-493.

2010 (キヌシッポゴケ科) 蘚類

〔和名〕 エゾキヌシッポゴケ

〔学名〕 *Seligeria tristricoides* Kindb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか3地域。国内では北海道と埼玉県からのみ報告がある。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 文献は Suzuki T., Iwatsuki Z. & Kiguchi H. (2006) The family Seligeriaceae (Bryopsida) in Japan. JHB 100:469-493.

2011 (シッポゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 マユハケゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Campylopus fragilis* (Brid.) Bruch & Schimp.

【評価所見】 本県では、秩父地域の2か所でのみ産地が確認されている。日当たりの良い開けた場所の腐食土上に生育するので、上部を樹木に覆われると減少する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】

2012 (シッポゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 マイマイゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Holomitrium densifolium* (Wilson) Wijk & Margad.

【評価所見】 永野(1964)によれば秩父地域に6か所の産地が確認されているが、現在ではそれらの産地では確認されていない。日当たりの良い蛇紋岩や角岩上のほか、樹幹に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 蛇紋岩、チャートまたは樹幹

【特記事項】 文献は永野 巖(1964) 秩父山地における蘚類数種の分布と着生基岩について. 秩父自然科学博物館研究報告 12:45-51.

2013 (シラゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 アラハシラゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Leucobryum bowringii* Mitt.

【評価所見】 現在のところ県内の産地は1か所のみ。国内では四国、九州、琉球では普通に見られる。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 県内の産地での生育量は10cm四方程度で極めて少ない。

2014 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 チチブアカハマキゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoerythrophyllum calcareum* (Thér) R. H. Zander

【評価所見】 国内で奥秩父のみが産地である。世界的にもメキシコとグアテマラから確認されているのみで、分布は限られている。道路脇の土をかくことによって絶滅した可能性がある。一度発見されたが、その後、同じ場所での確認はされていない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 林道の脇

【特記事項】 文献は木口博史・岩月善之助(2009) *Bryoerythrophyllum calcareum* (チチブアカハマキゴケ, 新称) は日本にも産する。蘚苔類研究 9(12):385-387.

2015 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ハナシアカハマキゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoerythrophyllum gymnostomum* (Broth.) Chen

【評価所見】 本県では産地は白泰山と両神山登山口の2か所のみである。両神山では道路沿いの石垣に生育しているため、道路拡張等で絶滅してしまう可能性がある。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 蛇紋岩またはチャートの石垣

【特記事項】 文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) JHB 39:373-537.

2016 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コアカハマキゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoerythrorophyllum rubrum* (Jur.) Chen var. *minus* Saito

【評価所見】 県内の産地は大血川西谷と二子山の2か所である。石灰岩採掘等により減少する可能性はある。大血川西谷では開発が進んだため、個体数が激減している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 本種は埼玉県秩父の大血川西谷を基準標本の産地とする種である。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2017 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ノギリアカハマキゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoerythrorophyllum wallichii* (Mitt.) P.C. Chen

【評価所見】 県内における産地は大血川西谷の1か所のみである。石灰岩採掘等により減少する可能性はある。大血川西谷では開発が進んだため、個体数が激減している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内では埼玉県大血川西谷のみが産地として知られている種である。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2018 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ムカゴネジレゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Desmatodon gemmascens* P.C. Chen

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁や石灰岩地に生育する樹木の樹幹に生育する。県内での報告例はわずか5地域。そのうち武甲山では生育が近年確認されていない。また大血川西谷では生育していた岩壁が崩壊し、絶滅した。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁と石灰岩地に生育する樹木の樹幹

【特記事項】 文献は Saito K. (1973) Memoir of the Japanese Pottiaceae (1) subfamily Pottioidae. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo 16 (1) :61-91.

2019 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ノギリフタゴゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Didymodon eroso-denticulatus* (Müll. Hal.) K. Saito

【評価所見】 県内における産地は大血川西谷の1か所が知られるのみである。石灰岩採掘等により減少する可能性はある。大血川西谷では開発が進んだため、個体数が激減している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内では埼玉県のほか、長野県、広島県にのみ知られている種である。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2020 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 イトヒキフタゴゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Didymodon leskeoides* K. Saito

【評価所見】 県内では秩父地域の湿った石灰岩上にやや普通に見られる種である。石灰岩採掘等により減少する可能性はある。大血川西谷では開発が進んだため、個体数が激減している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 埼玉県芋ノ木ドッケを基準標本の産地とする種である。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2021 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **カイガネクロゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Didymodon nigrescens* (Mitt.) K. Saito

【評価所見】 亜高山地帯の日当たりの良い石灰岩上に生育する種である。県内では3か所から報告がある。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内の産地は埼玉県のほか、山梨県北岳、徳島県剣岳でのみ知られている。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2022 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **トサノオウゴンゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Leptodontium flexifolium* (Dicks. ex With.) Hampe

【評価所見】 亜高山地帯の樹林下のチャート岩壁に生育する。県内の産地は2か所のみである。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 チャート岩壁

【特記事項】 国内における産地は埼玉県のみである。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2023 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **サジバオウゴンゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Leptodontium pergemmascens* Broth.

【評価所見】 低地のイチヨウ、カキなどの樹幹に生育するが、県内における産地は限られている。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 東部、西部、秩父地域

【県内生育状況】 樹幹

【特記事項】 本種は前述のトサノオウゴンゴケと同一種と見なす場合もあるが、生育環境が全く異なるので、ここでは別種として扱う。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2024 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **クロコゴケ**

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Luisierella barbula* (Schwägr) Steere

【評価所見】 奥秩父の2か所から報告がある。植物体は小さく、見つけるのは容易ではない。石灰石採掘による絶滅が予想される。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 木漏れ日の当たる石灰岩壁

【特記事項】 国内からは琉球、九州、四国、本州から報告があるが個体が小さいため、生育地は限られている。文献は木口博史・岩月善之助・鈴木直 (2006) 埼玉県で見つかったクロコゴケとシダレウニゴケ . 蘚苔類研究 9 (2) :61-62.

2025 (センボンゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **ハリイシバイゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Molendoa sendtneriana* (Bruch. & Schimp.) Limpr.

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか2地域。国内でも産地は少ない。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 やや湿った石灰岩壁

【特記事項】 文献は Saito K. (1972) Taxonomic and phytogeographic studies of specimens previously reported as *Molendoa sendtneriana*. JHB 36:163-170.

2026 (センボンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **センボンウリゴケ**〔学名〕 *Timmia anomala* (Bruch & Schimp.) Limpr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内では唯一、長瀨の岩畳に生育している。全国的にも秩父中生層に沿って分布が見られ、産地は限られている。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 川沿いの日当たりの良い、大水の時に水に浸るような場所の変成岩または石灰岩上

【特記事項】 文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2027 (センボンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ヒロハヨリイトゴケ**〔学名〕 *Tortella fragilis* (Hook. & Wilson) Limpr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 亜高山地帯の日当たりの良い石灰岩上に生育する。本県での産地は1か所のみである。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内における産地は北海道、長野県、山梨県、静岡県、埼玉県の5か所。文献は Saito K. (1975) A monograph of Japanese Pottiaceae (Musci) .JHB 39:373-537.

2028 (センボンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ミヤマコネジレゴケ**〔学名〕 *Tortula sinensis* (Müll. Hal.) Broth.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 秩父亜高山帯の日当たりの良い石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか1地域。石灰岩採取等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 乾いた石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内では群馬、長野、埼玉の3県に知られているに過ぎない。文献は Saito K. (1973) Memoir of the Japanese Pottiaceae (1) subfamily Pottioideae. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo 16 (1) :61-91.

2029 (ヤリカツギ科) 蘚類

〔和名〕 **シナノセンボンゴケ**〔学名〕 *Encalypta streptocarpa* Hedw.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか1地域。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 今までは日本産は *Encalypta procera* と認識されていたが、*E. streptocarpa* の当て間違いだと判明した。文献は岩月善之助・鈴木直・木口博史 (2008) 日本に産する糸状の無性芽をもつ *Encalypta* (ヤリカツギ属) の種. 蘚苔類研究 9 (10) :311-318.

2030 (ヤリカツギ科) 蘚類

〔和名〕 **ミヤマヤリカツギ**〔学名〕 *Encalypta rhaptocarpa* Schwägr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 亜高山地帯の日当たりの良い石灰岩上に生育する。本県での産地は1か所のみである。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内の石灰岩上に点々と生育している。各産地での生育量は少ない。環境の変化で絶滅する可能性がある。県内の産地もその後の調査では発見されていない。

2031 (ギボウシゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヤマトハクチョウゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Campylostelium brachycarpum* (Nog.) Z. Iwats., Tateishi & Tad. Suzuki

【評価所見】 県内での産地は十文字峠付近の1か所のみである。亜高山帯の樹林下の岩上に生育する。小型の蘚類で見つけることは困難を要する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 文献は岩月善之助・立石幸敏・鈴木直(1999)日本産 *Campylostelium* (ハクチョウゴケ) 属 .Hikobia 13:79-85.

2032 (ヒナノハイゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヒメシワゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Erpodium noguchianum* I. G. Stone

【評価所見】 県内の産地はは3か所。いずれも樹幹に着生している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。空中湿度が減少すると着生の蘚苔類は減少する可能性がある。

【県内分布状況】 西部地域、東部地域

【県内生育状況】 樹木の樹幹

【特記事項】 暖地性の植物である。

2033 (オオツボゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 イシヅチゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Oedipodium griffithianum* (Dicks.) Schwägr.

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った土上に生育する。永野(1962)によると十文字峠～三国峠間の山稜沿いにわずかではあるが、広く分布するとある。しかし、現在、県内での報告例はわずか2地域。岩の隙間に生育するため、生育地は限られている。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩の隙間

【特記事項】 国内の亜高山地域では比較的広く見られる。文献は永野(1962)奥秩父産蘚類雑記(2). 秩父自然科学博物館研究報告 11:41-45.

2034 (ヒカリゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ヒカリゴケ

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Schistostega pennata* (Hedw.) F. Weber & Mohr

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った土上に生育する。県内での報告例は少ない。岩や木の根の隙間に生育するため、生育地は限られている。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩や根の隙間の土上

【特記事項】 国内の亜高山地域では比較的広く見られる。

2035 (ハリガネゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ヤスダゴケ

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Anomobryum yasudae* Broth.

【評価所見】 県内での産地は1地区のみ。水が滝状に流れる石灰岩壁に生育する。国道140号沿いに生育しているため、道路拡張等で消失する可能性がある。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩壁上

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2036 (ハリガネゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **カサゴケモドキ**〔学名〕 *Rhodobryum ontariense* (Kindb.) Kindb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内では5か所から見ついている。大型の蘚類で観賞用に採集される場合もある。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2037 (チョウチンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **シノブチョウチンゴケ**〔学名〕 *Cyrtomnium hymenophylloides* (Huebener) T. J. Kop.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか1地域。石灰岩採取等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2038 (チョウチンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **トゲチョウチンゴケ**〔学名〕 *Mnium spinosum* (Voit) Schwäegr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内の産地は1か所のみである。大型の蘚類であるが、観賞用にされることは少なく、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2039 (チョウチンゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **テズカチョウチンゴケ**〔学名〕 *Plagiomnium tezukae* (Sakurai) T. J. Kop.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った土上に生育する。県内での報告例はわずか1地域。森林開発等が行われる場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った土上

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2040 (クサスギゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ミヤマクサスギゴケ**〔学名〕 *Timmia megapolitana* Hedw.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内での報告例はわずか2地域。石灰岩採取等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。近年大血川西谷では生育量が激減している。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2041 (タマゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コウライタマゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bartramia ithyphylla* Brid.

【評価所見】 県内の山地は1か所。亜高山帯の明るい岩のくぼみなどに生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2042 (タチヒダゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ホソミノゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Macrocoma tenuis* (Hook. & Grev.) Vitt subsp. *sullivantii* (Müll. Hal.) Vitt

【評価所見】 県内における産地は1か所のみである。石灰岩地の乾燥した樹幹に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹上

【特記事項】 暖地性の植物である。

2043 (タチヒダゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 モミゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Schlotheimia grevilleana* Mitt.

【評価所見】 旧植物誌には秩父から報告があるが、近年観察されていない。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹上

【特記事項】 暖地性の植物である。

2044 (イトヒバゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 イトヒバゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Cryphaea obovatocarpa* S. Okamura

【評価所見】 秩父地域の畑に生育していたクワの木に着生していたが、クワの木を切られたため、近年では観察されていない。県内での報告例はわずか1地域であったがその場所では絶滅した。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 クワの木の樹幹

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2045 (ムジナゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ホソムジナゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Trachypus humilis* Lindb.

【評価所見】 県内の産地は3か所。石灰岩壁やチャート岩壁に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 垂直岩壁

【特記事項】 暖地性の植物である。

2046 (ヒムログケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ナワゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Eumyurium sinicum* (Mitt.) Nog.

【評価所見】 県内における産地は1か所。現在ではゴルフ場になっているので、その産地では絶滅したと思われる。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹上

【特記事項】 暖地性の植物である。

2047 (ハイヒモゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 キヨスミイトゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Barbella flagellifera* (Cardot) Nog.

【評価所見】 空中湿度の高い、日当たりの良い溪谷にみられ、川沿いの樹木の枝から垂れ下がる。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 樹木の枝

【特記事項】 暖地性の植物である。

2048 (ハイヒモゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 イトゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Neodicradiella pendula* (Sul.) W. R. Buck

【評価所見】 県内では十文字峠付近に見られるのみである。本来は暖かい地方で空中湿度の高い場所に見られる種である。霧のかかるような場所の樹幹から垂れ下がる。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹木の枝

【特記事項】 暖地性の植物である。

2049 (ハイヒモゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ソリシダレゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Chrysocladium retrorsum* (Mitt.) M. Fleisch.

【評価所見】 県内での産地は秩父神社のみの1か所である。樹木の樹幹に生育している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹木の樹幹

【特記事項】 暖地性の植物である。

2050 (ハイヒモゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 オオミミゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Meteoriella soluta* (Mitt.) S. Okamura

【評価所見】 旧植物誌には秩父地域から報告されているが、30年前から県内では観察されていない。樹幹や岩壁から懸垂する比較的大型の蘚類である。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹や岩壁

【特記事項】 暖地性の植物である。

2051 (ハイヒモゴケ科) 蘚類 **埼玉カテゴリ** 絶滅危惧Ⅱ類(VU) **全国カテゴリ** ランクなし

〔和名〕 サイコクサガリゴケ

〔学名〕 *Meteorium buchananii* (Broth.) Broth. subsp. *helminthocladulum* (Cardot) Nog. var. *cuspidatum* (S. Okam.) Nog.

【評価所見】 県内では10か所から見ついている。空中湿度の高い場所の樹幹や岩壁から垂れ下がるが、平均気温の上昇とともに個体数は減少している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域、秩父地域

【県内生育状況】 樹幹、垂直岩壁

【特記事項】 暖地性の植物である。

2052 (ハイヒモゴケ科) 蘚類 **埼玉カテゴリ** 情報不足(DD)

〔和名〕 ハイヒモゴケ

〔学名〕 *Meteorium subpolytrichum* (Besch.) Broth.

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 旧植物誌には秩父・比企・入間から報告されているが、30年前から県内では観察されていない。樹幹や岩壁から懸垂する比較的大型の蘚類である。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域、秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 暖地性の植物である。文献は永野巖(1964)奥秩父産蘚類雑記(3)、秩父自然科学博物館研究報告 12:53-56。

2053 (ハイヒモゴケ科) 蘚類 **埼玉カテゴリ** 情報不足(DD)

〔和名〕 タカサゴサガリゴケ

〔学名〕 *Pseudobarbella levieri* (Ren. & Card.) Nog.

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 永野(1964)には雲取山から七ツ石に至る山稜で報告があるが、30年前から県内では観察されていない。開けた低木の枝に生育していたと思われる。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 低木の枝

【特記事項】 暖地性の植物である。文献は永野巖(1964)奥秩父産蘚類雑記(3)、秩父自然科学博物館研究報告 12:53-56。

2054 (ヒラゴケ科) 蘚類 **埼玉カテゴリ** 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 シタゴケ

〔学名〕 *Bissetia lingulata* (Mitt.) Broth.

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 本県における産地は武甲山と中津川の2か所。そのうち武甲山は現在、確認されていない。石灰岩採掘によって絶滅のおそれがあるが、採集価値は低く、採集による消失の危険性は少ない。

【県内分布状況】 奥秩父

【県内生育状況】 石灰岩地の樹幹または石灰岩上

【特記事項】 国内ではブナ帯に見られる。

2055 (ヒラゴケ科) 蘚類 **埼玉カテゴリ** 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ヒメタチヒラゴケ

〔学名〕 *Homaliadelphus targionianus* (Mitt.) Dixon & P. de la Varde var. *rotundatus* Nog.

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 樹幹に生育しているのが確認されている。近年、確認されていない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2056 (ヒラゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **キダチヒラゴケ**〔学名〕 *Homaliodendron flabellatum* (Sm.) M. Fleisch.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 永野(1964)の報告では県内の産地は4か所。その後、2か所の産地が追加された。永野の報告の4か所では見つかっていない。空中湿度の高い場所の樹幹や岩壁に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域、秩父地域

【県内生育状況】 樹幹、垂直岩壁

【特記事項】 暖地性の植物である。文献は永野巖(1964)奥秩父産蘚類雑記(3)。秩父自然科学博物館研究報告 12:53-56。

2057 (ヒラゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **サイシュウヒラゴケ**〔学名〕 *Neckera fauriei* Cardot

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 旧植物誌には秩父から報告があるが、ここ30年は観察されていない。石灰岩地に生育する樹木の樹幹に生育しているものと思われる。石灰岩採掘によって絶滅のおそれがあるが、採集価値は低く、採集による消失の危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹

【特記事項】 暖地性の植物である。

2058 (ヒラゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **コメリンスゴケ**〔学名〕 *Neckera flexiramea* Card.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内における産地は1か所のみである。空中湿度の高い場所の樹幹に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 樹幹基部

【特記事項】 暖地性の植物である。

2059 (ヒラゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **キブリハネゴケ**〔学名〕 *Pinnatella makinoi* (Broth.) Broth.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 準絶滅危惧種(NT)

【評価所見】 県内では西部地区に1か所産地が確認されている。規模の小さな石灰岩壁に生育しており、石灰岩採掘によって絶滅のおそれがあるが、採集価値は少なく、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 石灰岩壁

【特記事項】 文献は木口博史・田中敦史(2006)埼玉県にも *Pinnatella makinoi* (キブリハネゴケ) はある。蘚苔類研究 9(3):95

2060 (アブラゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ツガゴケ**〔学名〕 *Distichophyllum maibarae* Besch.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では西部地区の4か所に生育が確認されている。薄暗い谷の水のしたたるチャート岩壁に出現する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 岩壁

【特記事項】 暖地性の植物である。

2061 (ウニゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 シダレウニゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Symphodon perrottetii* Mont.

【評価所見】 秩父の3地点から報告があったが、中津川からは近年発見されていない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 風通しの良い渓谷、トンネルの出口

【特記事項】 西南日本では点々と産地の報告がある。文献は木口博史・岩月善之助・鈴木直(2006)埼玉県で見つかったクロコゴケとシダレウニゴケ. 蘚苔類研究 9(2):61-62.

2062 (クジャクゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔和名〕 コキシノオゴケ

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Cyathophorum hookerianum* (Griff.) Mitt.

【評価所見】 永野(1964)では4か所から報告があるが、現在確認されている産地は1か所のみである。渓谷の開けた場所にある樹幹、チャート上に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 チャート上

【特記事項】 暖地性の植物である。文献は永野巖(1964)奥秩父産蘚類雑記(3). 秩父自然科学博物館研究報告 12:53-56. 埼玉県レッドデータブック 2005 版の *Cyathophorella kyushuensis* (ヒメソテツゴケ) は、本種に統合された。

2063 (ヒゲゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 レイシゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Myurella sibirica* (Müll. Hal.) Reimers

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内では奥秩父、大血川西谷に確認されている。石灰岩採掘等で開発する場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2064 (シノブゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 トガリバギボウシゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Bryonorrhisia acutifolia* (Mitt.) Enroth

【評価所見】 国内では本県のみ1か所が産地として報告されている。世界的にも分布が少ない種である。石灰岩採掘によって絶滅のおそれがあるが、採集による消失の危険性は少ない。

【県内分布状況】 奥秩父

【県内生育状況】 石灰岩壁

【特記事項】 文献は岩月善之助・木口博史(2007) *Bryonorrhisia acutifolia* (トガリバギボウシゴケ) 覚え書き. 蘚苔類研究 9(6):205-207.

2065 (シノブゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 (なし)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Miyabea naganoi* Z. Iwats., H.Kiguchi & Tad. Suzuki

【評価所見】 武甲山、白石山、二子山から報告があるが、近年見つからない。比較的日光のよく通る樹林下の乾燥した石灰岩上である。石灰岩採掘等で開発する場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 乾いた石灰岩上

【特記事項】 本種に当てられた *Miyabea thuidioides* は種の混同がみられたため、新たに *Miyabea naganoi* という学名が当てられた。文献は永野巖(1964)奥秩父産蘚類雑記(3). 秩父自然科学博物館研究報告12:53-56. と Iwatsuki Z., Kiguchi H. & Suzuki T. (2010) Notes on the genus *Miyabea* Broth. (Leskeaceae, Bryopsida) in Japan. Hattoria 1:1-5.

2066 (ヤナギゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 ヤリノホゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Calliergonella cuspidata* (Hedw.) Loeske

【評価所見】 県内の産地は加須の浮野1か所のみである。近年観察されていない。日当たりの良い湿原の腐植土上に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 東部地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2067 (ヤナギゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 シメリゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Hygrohypnum luridum* (Hedw.) Jenn.

【評価所見】 県内の産地は大血川西谷1か所のみである。開発が進んだため、近年は観察されていない。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2068 (ヤナギゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ササオカゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Sasaokaea aomoriensis* (Paris) Kanda

【評価所見】 県内では加須市、上尾市から報告がある。上尾市の産地は休耕田であったが、埋め立てられたため絶滅した。加須市の生育地は県保護指定地になっているので、絶滅の心配は少ない。

【県内分布状況】 休耕田、湿地

【県内生育状況】 湿った腐植土上

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2069 (アオギヌゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヒゲバゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cirriphyllum cirrosum* (Schwägr.) Grout

【評価所見】 県内の産地は4か所。亜高山帯の樹林下の湿った石灰岩上に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 寒地性の植物である。

2070 (ツヤゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 フトサナダゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Entodon luridus* (Griff.) A. Jaeger

【評価所見】 荒川源流域から中津川にかけてのみ分布している。清流中に生育する数少ない蘚類の一種である。河川開発によって、消失する危険性がある。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 流水中の岩上

【特記事項】 暖地性の植物である。

2071 (ツヤゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **ホソバツヤゴケ**〔学名〕 *Orthothecium rufescens* (Brid.) Schimp.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内では奥秩父に確認されている。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。

2072 (ツヤゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **コホソバツヤゴケ**〔学名〕 *Orthotrichum intricatum* (Hartm.) Schimp.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った石灰岩上や石灰岩壁に生育する。県内では奥秩父、大血川西谷に確認されている。石灰岩採掘等で開発するような場合には危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿った石灰岩上や石灰岩壁

【特記事項】 国内からの報告例は少ない。文献は岩月善之助・永野巖(1966) 石灰岩蘚 *Orthothecium intricatum* は日本にも産する。蘚苔地衣雑報(4) 4:60.

2073 (サナダゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **オオサナダゴケ**〔学名〕 *Plagiothecium neckeroideum* Schimp.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 秩父亜高山帯の湿った腐食土上に生育する。比較的多くの場所で報告されているが、森林伐採等で絶滅する可能性がある。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 腐植土上

【特記事項】 国内の亜高山地域では比較的広く見られる。

2074 (ハイゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **サジバラッコゴケ**〔学名〕 *Gollania japonica* (Card.) Ando & Higuchi

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

【評価所見】 県内では大血川西谷でしか見つかっていない。開発等で絶滅する可能性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 文献は Higuchi M. (1985) A taxonomic revision of the genus *Gollania* Broth. (Musci). JHB 59:1-77.

2075 (ハイゴケ科) 蘚類

〔和名〕 **テリハラッコゴケ**〔学名〕 *Gollania nekerella* (Müll. Hal.) Broth.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 県内では奥秩父で見つかっている。石灰岩採掘等で絶滅する可能性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 文献は Higuchi M. (1985) A taxonomic revision of the genus *Gollania* Broth. (Musci). JHB 59:1-77.

2076 (ハイゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ナガバラッコゴケ

全国カテゴリー ランクなし

〔学名〕 *Gollania trugens* (Müll. Hal.) Ando

【評価所見】 県内では亜高山帯の奥秩父で見ついている。石灰岩採掘等で絶滅する可能性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 文献は Higuchi M. (1985) A taxonomic revision of the genus *Gollania* Broth. (Musci). JHB 59:1-77.

2077 (ハイゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ハイヒバゴケモドキ

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Hypnum vaucheri* Lesq.

【評価所見】 県内では亜高山帯の奥秩父で見ついている。石灰岩採掘等で絶滅する可能性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 文献は Ando H. (1977) Studies on the genus *Hypnum* Hedw. (Ⅲ) the journal of science of Hiroshima University. Series B. Div.2 16 (1) :1-46.

2078 (ハイゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ヒメコガネハイゴケ

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Podoperaea krylovii* (Podp.) Z. Iwats. & Glime

【評価所見】 県内では奥秩父から記録がある。植物体は小さく見つけることは容易ではない。石灰岩採掘によって絶滅のおそれがあるが、採集による消失の危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 沢沿いの木漏れ日の当たる石灰岩上または樹木の根

【特記事項】 国内では埼玉県のほか、長野県と北海道から報告がある。世界的にもあまり確認されていない。文献は木口博史・岩月善之助(2005)本州で見つかった *Podoperaea krylovii* (ヒメコガネハイゴケ). 蘚苔類研究 9 (1) :18

2079 (ハイゴケ科) 蘚類

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コウライイチイゴケ

全国カテゴリー 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Taxiphyllum alternans* (Card.) Z. Iwats.

【評価所見】 東部低地を主として、県内の休耕田、湿地に比較的広く分布する。宅地造成等で湿地の埋め立てが行われると消失する可能性が高い。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 東部地域、南部地域の低地

【県内生育状況】 土上

【特記事項】

2080 (ツキノキゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ミドリホラゴケモドキ

全国カテゴリー ランクなし

〔学名〕 *Calypogeia granulata* Inoue

【評価所見】 県内では飯能市、越生町で見ついている。越生町は国内における北限である。生育数などに変化はないが範囲は狭い。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 堆積岩上

【特記事項】 国内ではほかに紀伊半島、屋久島などから記録がある。黒山三滝を基準標本の産地とする。

2081 (ツボミゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 ヒマラヤソロイゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Jungermannia appresifolia* Mitt.

【評価所見】 県内では秩父で確認されている。秩父山地の花崗岩上に生育する。甲武信岳山頂付近から一度報告があるが、その後、40年以上にわたって確認されていない。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 花崗岩上

【特記事項】 本州中部、屋久島の高地に分布するが希少。

2082 (ツボミゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 チチブブシュカンゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Leiocolea chichibuensis* (Inoue) Inoue

【評価所見】 亜高山帯の石灰岩上に生育する。県内では秩父地域で確認されている。森林伐採や石灰岩採掘によって減少が考えられる。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 武甲山を基準標本の産地とする。埼玉 RDB1998 ではイシバイイチョウゴケとして記載されている。

2083 (ツボミゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 イギイチョウゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Leiocolea igiana* (S. Hatt.) Inoue

【評価所見】 亜高山帯の湿った石灰岩上に生育する。県内では秩父地域で確認されている。森林伐採や石灰岩採掘によって減少が考えられる。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 全国的に希少な苔類である。

2084 (ツボミゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 情報不足(DD)

〔和名〕 アイバゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Plicanthus birmensis* (Steph.) R. M. Schust.

【評価所見】 県内では大血川から一度報告されているが、50年以上にわたって確認されていない。詳細な調査が望まれる。渓谷のチャート岩上に生育するが、絶滅した可能性もある。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】

2085 (ヒシヤクゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 ミゾゴケモドキ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Scapania cuspiduligera* (Nees) Müll. Frib.

【評価所見】 県内では亜高山帯の奥秩父で見つかっている。石灰岩採掘や森林伐採等で絶滅する可能性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内では埼玉県から報告があるのみである。

2086 (ヒシヤクゴケ科) 苔類

〔和名〕 ムカシヒシヤクゴケ

〔学名〕 *Scapania ornithopodioides* (With.) Waddell

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯～亜高山地帯のチャートやその他の古生層の岩の割れ目に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 世界的に不連続分布をする種として知られており、本州・四国に点在する。

2087 (ヒシヤクゴケ科) 苔類

〔和名〕 イボヒシヤクゴケ

〔学名〕 *Scapania verrucosa* Heeg

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。ブナ林や亜高山地帯の石灰岩上に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 国内では埼玉県から報告があるのみである。

2088 (ウロコゴケ科) 苔類

〔和名〕 トガリバトサカゴケ

〔学名〕 *Lophocolea cuspidatus* (Nees) Limpr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。亜高山地帯の石灰岩地の腐食質土上に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 土上

【特記事項】 北半球に広く分布するが、国内では非常に希である。

2089 (ハネゴケ科) 苔類

〔和名〕 トサハネゴケ

〔学名〕 *Plagiochila fruticosa* Mitt.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では西部、飯能市・越生町で少量見つかっている。越生町は国内における北限である。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 堆積岩上

【特記事項】 埼玉 RDB1998 ではキブリハネゴケとして記載

2090 (ハネゴケ科) 苔類

〔和名〕 ヒゲハネゴケ

〔学名〕 *Plagiochila gracilis* Lindenb. et Gottsche

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯～亜高山帯の石灰岩上に薄くつもった土上に生育するが、近年生育が確認されていない。森林伐採等によって絶滅した可能性もある。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上に薄くつもった土上

【特記事項】 埼玉 RDB1998 ではウルシハネゴケとして記載

2091 (ハネゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヨコグラハネゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Plagiochila parvifolia* Lindenb.

【評価所見】 県内では飯能市と秩父で確認されている。低地帯～山地帯の岩上や樹皮に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域、秩父地域

【県内生育状況】 岩上、樹皮

【特記事項】 埼玉 RDB1998 には *Plagiochila yokogurensis* の学名で記載されている。

2092 (ハネゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コモチハネゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Xenochila integrifolia* (Mitt.) Inoue

【評価所見】 県内では飯能市と秩父地域で確認されている。山地帯の岩上、朽木上で他の蘚苔類と混成して生育する。大血川から報告されているが、開発のため激減した。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上、朽木上

【特記事項】 主に堆積岩の地域に生育するが、全国的に産地は少ない。

2093 (チチブイチョウゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 チチブイチョウゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Acrobolbus ciliatus* (Mitt.) Schiffn.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の石灰岩地に生育するが、近年激減した。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 埼玉県を基準産地とする *Acrobolbus titibuensis* は本種の異名とされている。

2094 (ケビラゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コミミケビラゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Radula auriculata* Steph.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。亜高山帯の樹皮、石灰岩上に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹皮、石灰岩上

【特記事項】 亜高山地帯から記録があるが、全国的にやや希。

2095 (クラマゴケモドキ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ナガバクラマゴケモドキ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Porella subobtusa* (Steph.) S. Hatt.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の湿った岩上に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 全国的な希少種で関東では珍しい。

2096 (ヤスデゴケ科) 苔類

〔和名〕 サカワヤスデゴケ

〔学名〕 *Frullania sackawana* Steph.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 県内では飯能市で報告されているが、数十年間確認されておらず、詳細な調査が望まれる。絶滅したおそれもある。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 樹幹

【特記事項】 埼玉県を国内における分布の北限とする。

2097 (ヤスデゴケ科) 苔類

〔和名〕 シコクヤスデゴケ

〔学名〕 *Frullania valida* Steph.

埼玉カテゴリー 情報不足(DD)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で報告されているが、近年確認されておらず、詳細な調査が望まれる。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹皮

【特記事項】 近畿以西に広く分布しているが、関東では非常に希である。

2098 (ヤスデゴケ科) 苔類

〔和名〕 ハットリヤスデゴケ

〔学名〕 *Neohattoria horzogii* (S. Hatt.) Kamim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。亜高山の樹幹に着生するが、他の蘚苔類と混成することが多く、野外で見つけることは困難。森林伐採によって、絶滅する危険性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹幹

【特記事項】 中部以北の亜高山帯に分布するが、生育数は少ない。

2099 (クサリゴケ科) 苔類

〔和名〕 ヤマナカヨウジョウゴケ

〔学名〕 *Cololejeunea ornata* A. Evans

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。低地帯～山地帯の石灰岩上に生育するシダや大型の蘚類に着生する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 葉上

【特記事項】 福島県以西に分布するが、東日本では希である。

2100 (クサリゴケ科) 苔類

〔和名〕 ヨシナガクロウロコゴケ

〔学名〕 *Dicranolejeunea yoshinagana* (S. Hatt.) Mizut.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の湿潤な岩上に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 湿岩上

【特記事項】 宮城県以西に分布するが、東日本では非常に希である。

2101 (クサリゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **コダマクサリゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lejeunea kodamae* Ikegami & Inoue

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の樹皮に生育する。森林伐採で絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 樹皮

【特記事項】 関東・中部・近畿地方から記録はあるが少ない。

2102 (クサリゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **カビゴケ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Leptolejuenea elliptica* (Lehm. & Lindenb.) Schffn.

【評価所見】 県内では西部地域で見ついている。温暖で湿潤な渓谷の葉上に生育する。採集価値は低く、採集による危険性は低い。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 葉上

【特記事項】 渓谷沿いの樹木を伐採することによって、渓谷の乾燥化が進むと絶滅する。

2103 (クサリゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **ツジベゴヘイゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Tuzibeanthus chinensis* (Steph.) S. Hatt.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。低地帯～山地帯の石灰岩上または樹幹基部に生育する。森林伐採によって、絶滅する危険性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上・樹幹

【特記事項】 埼玉県以西から記録があるが、近年激減している。

2104 (トロイブゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **ヒメトロイブゴケ**

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔学名〕 *Apotreubia nana* (S. Hatt. & Inoue) S. Hatt. & Mizu.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。亜高山帯の半陰地の岩上に生育する。トンネルの開通によって森林の乾燥化が懸念されており、絶滅する危険性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 埼玉県を基準標本の産地とする。

2105 (ミズゼニゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **ミヤマミズゼニゴケ**

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Calycularia crispula* Mitt.

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯～亜高山帯の主として古生層地域の湿岩上に生育する。近年、夏季の猛暑と乾燥により枯死する個体が目立つ。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 古生層の岩上

【特記事項】 全国の堆積岩地域に分布する。

2106 (ミズゼニゴケ科) 苔類

〔和名〕 エゾヤハズゴケ

〔学名〕 *Hattorianthus erimonus* (Steph.) R.M.Schust. & Inoue

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の渓谷の湿った岩上に生育するが、産地の乾燥化が進んでおり、激減している。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 主にブナ林の渓谷に分布する。

2107 (ハマグリゼニゴケ科) 苔類

〔和名〕 ハマグリゼニゴケ

〔学名〕 *Targionia hypophylla* L.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内では秩父地域、小鹿野町で確認されている。山地帯の湿った岩上に生育するが、生育範囲は狭い。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 国内では埼玉県その他、長野県から報告があるのみである。

2108 (ジンガサゴケ科) 苔類

〔和名〕 アツバサイハイゴケ

〔学名〕 *Asterella crassa* Shimizu & S. Hatt.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 県内では秩父地域、小鹿野町で確認されている。山地帯の石灰岩上に生育する。森林伐採や石灰岩採掘によって絶滅する危険性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩上

【特記事項】 武甲山を基準標本の産地とし、関東地方にのみ分布する。

2109 (ジンガサゴケ科) 苔類

〔和名〕 オオサイハイゴケ

〔学名〕 *Asterella cruciata* (Steph.) Horik.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 県内では秩父地域で確認されている。山地帯の石灰岩地・石灰岩上または土上に生育する。森林伐採や石灰岩採掘によって絶滅する危険性があるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 石灰岩地域

【特記事項】 埼玉県を基準標本の産地とするチチブサイハイゴケ、ミツミネサイハイゴケは本種の異名である。

2110 (ジンガサゴケ科) 苔類

〔和名〕 ウルシゼニゴケ

〔学名〕 *Mannia levigata* (Gottsche) L. C. Wheeler

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 県内では秩父地域で報告されているが、近年、詳細な調査によっても生育が確認できていないため、絶滅したおそれが高い。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩の隙間

【特記事項】 埼玉県秩父地域市上中尾を基準標本とする *Mannia levigata* Shimizu & S.Hatt. は本種の異名。国内で唯一の産地。

2111 (ジンガサゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **イワゼニゴケ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔学名〕 *Mannia triandra* (Scop.) Grolle

【評価所見】 県内では飯能市で確認されている。川沿いに発達したサワグルミやウダイカンバ林の林床に生育する。近年発見されたばかりなので生育の増減は不明である。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部地域

【県内生育状況】 土上

【特記事項】 県内では飯能市から報告されているのみで、全国的にも希少である。

2112 (ジンチョウゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類(CE)

〔和名〕 **チチブゼニゴケ**

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔学名〕 *Athamia nana* (Shimizu & S. Hatt.) S. Hatt.

【評価所見】 県内では秩父地域でのみ確認されている。山地帯～亜高山帯の湿潤な岩壁の割れ目などに生育する。森林伐採によって、絶滅する危険性がある。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 秩父地域

【県内生育状況】 岩上

【特記事項】 埼玉県・長野県・三重県から採集されている。埼玉県を基準標本の産地とする。

2113 (ウキゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔和名〕 **ウキゴケ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Riccia fluitans* L.

【評価所見】 日本全国、世界各地に分布している。県内では東部地区に広く分布する。低地帯の池や水田の水中や水面に群生するほか、人家の庭や裸地にも生育する。宅地造成、湿地開発、農薬散布で絶滅する危険性はある。採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 東部地域

【県内生育状況】 水面上、土上

【特記事項】 県内に広く分布しているが、近年、水辺では著しく減少している。

2114 (ウキゴケ科) 苔類

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類(VU)

〔和名〕 **イチョウウキゴケ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧種(NT)

〔学名〕 *Ricciocarpos natans* (L.) Corda

【評価所見】 日本全国、世界各地に分布しているが、県内では秩父地域や西部地域に広く分布する。低地帯の池や、水田の水面に群生する。低地開発、宅地造成、農薬散布などで絶滅する危険性はあるが、採集価値は低く、採集による危険性は少ない。

【県内分布状況】 西部、秩父地域

【県内生育状況】 水面上

【特記事項】 かつては県内に広く分布していたが、近年減少している。